

1. 活動報告（事務局 記）

- 1月29日～2月5日 宇部市民パワー祭（パネルを展示）
2月5日の本祭には3会員の立会でビオトープの説明や会員及び「里山自然観察隊員」の勧誘を行ないました。
併せ28日、2月3日パーティーン運搬に原田マが応援参加しました。
- 2月5日（日）この日の活動は
 - (1) 看板の取替え、（遊ロード案内、駐車場、ビオトープ入口来客注意事項等々）
 - (2) 観察道階段3ヶ所整備（ひのきに交換）
 - (3) 竹炭火入れ
 - (4) 市民パワー祭参加参加者はビオトープ現場15名、パワー祭3名でした。
尚、当日の竹炭火の番4名で23時30分火止めをしました。取り出しは火曜日9時からしました。竹炭の量が11kgしかないため、8日、11日の2回で追加焼出を原田家の窯で行ないました。
- 2月12日 下関市の豊田ホテルの里ミュージアムにてビオトープの講演 西原会員
- 2月18日（土）の活動状況 15名の参加でした。
 - (1) 竹炭の約30kg排水4箇所へ追加設置
 - (2) 残った竹を利用し草原ゾーン川のシガラ補修
 - (3) カブトムシ小屋の修復と椎茸ホダ古木を投入
 - (4) その他、イモリ、カエルの産卵場所の掘り起こし、クヌギ苗のプロテクタ取り付け、案内看板の交換据付、椎茸の収穫をしました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 子どもエコクラブの毎年のビオトープでの行事依頼(日程不明)ただし案内者2～3名要望あり
- 3月5日 ネイチャークラブの方々がビオトープや昭和山遊ロードを利用し行事をされます。
代表者は岡田さんです。

◎ 行事

- 3月5日（第一日曜日）の活動（安全柵の修復、植生調査及びエコアップ）
- 3月18日（第三土曜日）の活動（観察道の修復、草刈り）
午後は総会準備のため今井会長、原田副会長、原副会長、田村代行、西原編集長、林監事、部坂監事、事務局、ほかご希望の方参加をお願いして会計監査と会議があります。
 - 1) 役員改選について
 - 2) 活動計画について
 - 3) 17年度会計監査

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

スギとネズミサシ（ヒムロ）

花粉症の人には憂鬱な季節が今年もやってきました。近年、日本人の5人に一人は花粉症持ちといわれ、さらに増える傾向にあります。花粉症の人たちにとってスギは、不倶戴天の敵みたいになっていますが、古来から、日本の用材のナンバーワンは文句なしにスギだったわけですから、手のひらをひっくり返したような日本人の態度の豹変ぶりには、さぞかしスギも戸惑っていることでしょう。スギはスギ科スギ属に属する樹木で、国内には1種しか分布しません。太平洋側と日本海側では形態が異なり、太平洋側のスギをオモテスギ、日本海側のスギは変種アシウ（芦生）スギ、またはウラスギと呼んでいます。有名などころでは、屋久杉はオモテスギ、秋田杉はウラスギの系統です。アシウスギは多雪地帯に適応して、覆条更新、すなわち雪の重みで地面に着いた枝から根が生えて一本の木に成長するという特徴があります。島根県の安蔵寺山では、典型的なアシウスギの覆条更新のようすを見ることができます。スギの天然林は青森から屋久島まで山中に点々と存在しますが、全国で450万haもあるスギ林のほとんどは、もちろん植林によるものです。元禄年間にはすでにスギの植林が始まったといえますから、300年の歴史があるわけです。スギの木は昔からあったのに、花粉症が近年爆発的に増加したのは、人間の側の行き過ぎた清潔志向によるアレルギーを引き起こしやすい体質、排気ガスなどとの複合効果、それにもましてスギ花粉飛散量の増加が原因であると考えられます。戦後、木材の価格が高かった時代に、これは儲かると、山という山はスギやヒノキの山に替えられていきました。ところが昭和40年代以降、材価の低迷とともにスギ林は植えっぱなしでほっておかれるようになりました。モヤシのように育ってしまった過密なスギ林は、風や病気で弱って、子孫を残すために今一生懸命花粉を飛ばしているという哀れな状況なのです。間伐や枝打ちといった手入れをしないと、15年後にはさらに20%も花粉が増える、という試算もあります。風に舞うスギ花粉は、身勝手な日本人を咎めるうらめしの花嵐なのかもしれません。

ネズミサシは、ネズ、あるいはムロという別名のあるヒノキ科の木です。山口ではヒムロと呼ばれていて、最初聞いたときにはそんな木があったのか、と思いました。ヒムロはたぶん、桧ムロという字を当てるのでしょう。ヒノキ科に属しますが、ヒノキの鱗片状の葉とは違って、スギのような針状の葉をもっています。手で触ると刺さって痛いので、ネズミも痛くて通れないというところからネズミサシという名前がついています。瀬戸内海沿岸の特に花崗岩地帯などの保水性の乏しい場所に特徴的にみられ、林床にはコシダやウラジロ、高木層にはアカマツやハゼノキ、ネジキなどと混在しています。成長の遅い木なので、スギのように一般的な用材としては用いませんが、この木の黒い丸い実は、ヨーロッパではジェニパー・ベリーといって、ご存じジンの香り付けに用います。ジンは、1660年にオランダで生まれた薬用酒です。1689年にオランダのオレンジ公ウィリアムがイギリス王国に迎えられるとともに、イギリスでも広まり、ロンドンで爆発的にやりました。「ジェニパーの」という意味の「ジェネブル」が縮まってジン（Gin）と呼ばれるようになったそうです。利尿効果や胃の働きを促進する効果があります。実は3年前、痛風の発作に襲われた後、このジェニパーが痛風・高尿酸血症の特効薬だと知って、通販でヨーロッパ産のジェニパー・ベリーを買い求めたことがあります。焼酎に漬けたのですが、たくさん入れ過ぎたためかテレピン油臭くて、とても飲めたものではありませんでした。ジェニパーが二俣瀬に生えているヒムロと同じものだと知ったのは、ずっと後になってからのことです。痛風に効くかどうかは別にして、ヒムロから「二俣瀬産ドライ・ジン」でもつくって みるのも一興かもしれません。



スギ (スギ科)



ネズミサシ (ヒノキ科)

4. ビオトープ関連 (会員の声) (藤村武昭 記)

“ぶつぶついうな“(わたしごと)

私事では有りますが、平成16年春から体調を崩し、なかなか行事出席できず恐縮しています。昨年あたりから、軽作業ならと、時々お世話になっています。会の発足時に比べ、会員の皆様もそれなりに年を加えられ世に言う高齢化に向かっているのかも?(その為にも何か若い人が興味を持つことが出来るビオトープの目玉はなんだろうな?)

会の世話をされている方は大変でしょうが「講釈より汗を流し、時には勉強会をしよう」と言う方向に行かなければ現地が荒れますぞ。

一昨年より竹(木)炭を製造していますが、田んぼゾーン取水口、ため池ゾーン取水口の炭層部ももう少し広く、がっしりとしたいものです。また毎回会報に美濃和会員の記事が記載されていますが大いに利用したい感じがします。休憩時でも現物を見る機会を作るようにして、植物の名前を憶えれば皆さんも少しは興味がわくと思います。(里山自然観察隊とは別) 以上

次回は 岡谷政宏 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

—1月29日—

「ビオトープフォーラム in 山陽町」の帰りに寄ってみました。朝10時ごろでしたので、氷が張っていて、所々にメダカが群れているのが見えました。カスミサンショウウオの産卵時期に又来て見ます。
Iryamama(記入のまま記載しました。事務局)

—2月1日—

厚東に住んで25年始めて二俣瀬の地に入って見ましたところ、こんなところが有ると知りました。昭和山はまた登るとして、ここビオトープでしばし遊んで帰ります。また来ます。無記名

6. 会よりの連絡事項

1) 編集委員の大村さんが、今号をもって編集委員を辞められます。長い間携わって頂いてありがとうございました。今後は新たに藤井義晴さんが参加されます。

編集委員は出来だけ多い方が会報の内容が充実すると思います。どなたかご希望の方はございませんか？ 但しメールアドレスのある方が機動的です。

2) 年度末が近づいています。18年度の活動計画を立てています。会員の出来るだけの意見を聞き反映したいと思います。前述の藤村会員のような意見等承ります。

7. 編集後記

先日は、久し振りの作業でした。

小川は“春の小川”のイメージらしく成ったかしらと、近づくとき……。色は濃く、硬そうになったクレソンに覆われて、一部は水の流れも見えませんが、大皿の片隅に置かれたお洒落なクレソンとは、別物の様に見えます。日夜、寒風にさらされても、どんどん増えていって水の流れもせき止めた逞しさに驚きました。が、それでも川の流れを良くする為、力一杯持ち上げると、絹糸のような白い無数の根が泥の中で輝いています。そして、紫がかかった暗緑色の葉にカバーされて、その下は柔らかな若緑のスーパーで見るあのクレソンが、大量に繁っています。その繁殖力は、数年前少しのクレソンを持ち帰り、家の水槽の泥の中に植えて、出来るだけ水を換えても、数日の内に見る影も無くなった事が思い出されます。やはり、これも野に置けと言う事なのでしょう。水湿地に自生し、清流に茎は水中に這う様に生えている、と言うイメージに近づく様、適量のクレソンを見、時には味わい乍ら、小川の流に癒されて、作業を続けていきたいと思いました。

蛇足ですが、色と言えばニホンアカガエルの綺麗な体の色も、とても印象的でした。皆様、ご覧になりましたか？

(大村 美智子 記)